平成２３年度

校内研究のまとめ

研究主題

『いきてはたらく言葉の力を育む』

～主体的に読もうとする子どもの育成～

武雄市立若木小学校

〒843-0151　佐賀県武雄市若木町大字川古 8038 番地

Tel　0954-26-2006　　Fax　0954-26-2030

目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全体１：１

１　平成２３年度　研究計画

１　研究主題・主題設定の理由・研究目標・研究仮説・・・・・全体１：２
２　研究内容と方法　・・・・・・・・・・・・・・・全体１：３
３　研究組織　・・・・・・・・・・・・・・・全体１：４
４　指導案の形式　・・・・・・・・・・・・・・・全体１・５６
５　研究の経過　・・・・・・・・・・・・・・・全体１：７

Ⅱ　研究の実際

１　第１学年　「じどう車くらべ」・・・・・・・・・・・　第１学年：１～

２　第２学年　「スイミー」　・・・・・・・・・・・・　第２学年：１～

３　第３学年　「ちいちゃんのかげおくり」・・・・・・・・・第３学年：１～

４　第４学年　「詩を楽しもう」・・・・・・・・・・・・・・・第４学年：１～

５　第５学年　「天気を予想する」・・・・・・・・・・・・・第５学年：１～

６　第６学年　「やまなし」・・・・・・・・・・・・・・・・・第６学年：１～

Ⅲ　研究の成果と課題　・・・・・・・・・・・　全体　２：１～５

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全体２：６

研究同人

はじめに

1　今日的課題

平成２３年度から完全実施された小学校学習指導要領国語科の改善の基本方針に、言語の教育としての立場を一層重視し、特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することと記されています。

私たちは、日常の事象に対して言葉を使って考え、判断し、表現活動を行っています。子どもたちは、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の国語の学習を通して生きて働く言葉の力を獲得し、それらを活用することによって確かな学力や豊かな人間性、健康・体力を支える生きる力を身に付けています。つまり、教師は子どもたちに生きて働く言葉の力を身に付けさせることによって生きる力を育成しています。

2　実践 1

本校は昨年に続きテーマを「いきてはたらく言葉の力を育む」～主体的に読もうとする子どもの育成～と設定し、研究を継続しています。

具体的な取組としては、研究推進委員会で研究の方針を立て、全体会で共通理解を図り、授業研究部及び専門部で実践を行っています。

上学年と下学年に分かれた授業研究部では、研究の視点に基づいて指導案を作成し、研究授業及び授業研究会を行い、指導の評価、改善、検証を行っています。

言語環境部と読書推進・情報発信部に分かれた専門部会では、言語環境の整備や学力向上のための情報発信等に力を注いでいます。また、毎週木曜日の朝の時間をスキルタイムとして、語彙力や記述力、視写力を高める取組も行っています。

その他にも、月１回の本校教師によるお話先生や地域の読書ボランティアによる読み聞かせ、読書週間の実施など「いきて働く言葉の力を育む」ための取組を行っています。

3　実践 2（学校だより７月号より抜粋）

わかる子どもをめざして国語の学習に挑戦しました。２年生は「スイミー」、６年生は「やまなし」の学習でした。子どもたちは作品を何回も読み、感想を書き、作者が書いた他の作品を読む活動へと進みます。学習のよかった点は、①先生の話を静かに聞いていました。②自分の考えを書いていました。③自分の考えを発表していました。④先生は、子どもたち一人一人の学習を観察し、主人公の言動がわかる言葉に着目させて作品を読ませていました。⑤黒板や教室には、子どもたちの学習の足跡がわかる掲示物が貼ってありました。子どもたちが意欲的に学習に取り組めたのはこれまでの授業実践の成果であり、継続は力なりです。

4　お礼

８月と１１月の２回にわたり、佐賀県教育センター小学校国語科担当の西山恵美先生には、本校の研究テーマに基づく教材研究の方法や「言語活動」、評価等について丁寧にご指導をいただきました。職員一同先生に感謝し、ご指導に応えるために更に実践を積み上げていきたいと思います。

最後に、研究のあゆみにご協力をいただきました本校の先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成２４年３月　　武雄市立若木小学校　校 長　山 口 左 内

I　研究計画

校内研究計画

1　研究主題

『いきてはたらく言葉の力を育む』

～主体的に読もうとする子どもの育成（２年次）～

2　主題設定の理由

本格的な「平成の教育改革」が実施された。その背景には，「学力低下」「モラルの低下」「家庭教育力の欠如」等々があげられる。それらを向上させるには，学校・家庭・地域が連携し合った取組が不可欠である。所謂，「学社融合」の類である。

ところで，私たちの生活は“聞く・聴く・訊く”と“話す”の言語行動によって成り立っており，ほとんどが，「きく」ことであると分析されている。子どもが学習する各教科・特活・道徳等は，言語活動をもとに進められる。ところが，これらのことを子どもに上手く機能・連動させなかった指導者も大いに反省しなければいけない。そこで，母国語である日本語を通して，これからの世の中を背負う子どもに真の国語教育を行うことが指導者の責務である。

そこで，本校ではすべての教科の基礎となる国語科に焦点を当て、とりわけ「読む力」の向上を目指した研究を行っていく。テーマとした『いきてはたらく言葉』とは「学習の中で読み取ったり，考えたりしたことを児童の持っている思考力・判断力・表現力をもとに日常生活で生かす力」ととらえている。

これまでの本校の研究を振り返ると，平成２０年度・２１年度は「書くこと」を中心とした取り組みにより，自分の考えを持ち、いきいきと書こうとする力はついてきた。そのため，全国学力状況調査においても「書くこと」の領域は高い結果であった。反面，今後の課題として、①文章を正確に読みとらせること。②内容を要約して表現させること。③読みとったことを基に想像豊かに広げて読ませることの指導や「言語活動」の充実が必要であることがあげられた。

これらの課題を解決するために，指導要領の「読むこと」の指導事項にもある「内容や表現を相互に関連づけて読んでいく。」「自分の目的や意図に応じて考えをまとめたり深めたりしていく。」ことや「国語科の学習用語」を重点的に指導していく必要があると考えた。１単位の授業のなかに読む活動と書く活動を設定した単元づくりや授業づくりを工夫していくことを通して主体的に読もうとする子どもを育むことができると思われる。特に授業を支える人間関係を醸成しながら互いの考えを尊重し，多様な言語活動を行うことにより，正確に理解したり、表現したりするであろうと考える。

以上のことから，本校では主体的に読もうとする子どもを育成するための指導の工夫や在り方を研究実践していくことにより，文章内容を正確に理解し，学んだ言葉を実の場で生かせることができる「若木の子どもの読む力」を高めることをめざし、本主題を設定した。

3　研究の目標

「読むこと」の指導において

(1) 正確に理解する能力や主体的に読もうとする力を育む力を高める指導法の改善と工夫

(2) 「言語活動」の充実を図るための工夫

4　研究の仮説

「読むこと」の学習において児童に身につけさせる力（学習用語も含む）を明確にし．その指導と言語活動の工夫をしていけば，主体的に読もうとする意欲を高めるとともに文章内容を正確に理解する力を育むことができるであろう。

5　研究の内容と方法

（1）児童の興味・関心・意欲・学力の実態把握

全学年６月と２月に児童の実態及び変容を確かめるために、同じ内容のアンケートをとる。また研究授業前には、必要かつ適切な児童の実態把握をする。

（2）意欲的、主体的に取り組む指導法の改善と工夫

① 年間指導計画の工夫（身につける力、単元、学習内容、活動、評価、目指す児童像など）

ア：学年・月・単元において系統性を持たせた計画を作成する。）

② 単元・１単位時間での指導の目的、内容、方法を明確にした学習展開の工夫

ア：一人読みの時間の確保と手立てを工夫する。

イ：授業が活性化する音読を重視し、学校生活の中で音読・群読・朗読等ができる時間を確保していく。

ウ：活動の目的・内容、方法に応じた教材・教具を開発し、指導を工夫する。

エ：ワークシートの活用、学習ノートの工夫

③ 発問の工夫

ア：児童の多様な発言を促し、正確な読みの力を高めたり、主体的に読もうとする子どもを育てたりするための発問等の工夫をする。

④ 学習用語の指導（実践校を参考にする。）

（3）言葉の力を高める学習を支援する言語環境の整備

① 言語環境の整備

ア：話型や言葉の約束などを掲示し、日々の学習に目標を持ち、意識して取り組む。

イ：授業の様子やワークシートを掲示し、学習の足跡を確認させる。

ウ：日常的な国語辞典の活用（３年生以上）

② 学習を支える日常指導

ア：スキル学習や、繰り返し学習を日常的に行い、言語活動を活性化させる。

イ：授業と連動した読書の推進（おすすめの本等：武雄市「お薦めの本」の活用）

（4）評価の工夫・改善

① 評価活動（教師による子どもへの評価、子ども同士の相互評価、子ども自身による自己評価）を授業の中で実施することで、児童の「個の読み」の良さを把握する。

6　具体的な取り組み

（ア）研究の視点に基づいた研究授業を実施する。（６～１２月）

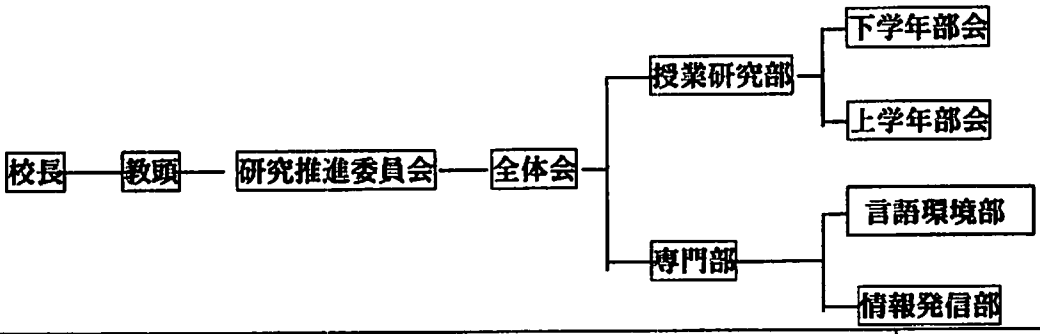
全体授業研究会を上下学年より１回ずつ行う。他の学年はグループ授業研究会を行う。

（イ）グループ部会，専門部会をおき部会別研究を行う。

（ウ）「校内研究のまとめ」として冊子を作成する。（２月予定）

（エ）スキルタイムを毎週木曜朝の時間に設定し、児童の語彙力・記述力・視写力などを高めるためのスキルに取り組ませる。

7　研究の組織



研　究　会		主　な　活　動　内　容	係
研究推進委員会		・研究テーマの理論づけ ・研究構想作り ・年間研修計画の作成	校長・教頭・教務・研究主任・学年部会部長
全体会		・指導案説明会（全体研事前） ・授業研究会 ・研究推進委員会を受け研究内容についての検討 ・先進校視察の報告会	全職員
授業研究部	下学年部会	・部会での研究内容の設定 ・研究授業指導案の作成と資料の保管 ・検証授業 ・研究会の司会・記録 ・授業の成果と課題	中島・平川・川崎・教頭 稲富・池田友
	上学年部会		小野・池田雅・坂口・ 今田・松尾
専門部	言語環境部	・言語に関する環境整備（今月の詩・ことわざ等） ・取り組みの成果と課題	今田・中島・平川　稲富 松尾　池田友
	読書推進 情報発信	・学力向上のための情報発信（家庭への啓蒙活動・読書・生活リズムチェック・辞書等の利用） ・取り組みの成果と課題	教頭・小野・川崎 池田雅・坂口

8　年間計画

4月 第１回研推 第１回全体会	6月・7月 校内研① 事前研 ＊全体研	8月 専門部会 スキルプリント作成 講師招聘研修	１０月 研修 校内研③	１２月 研修 校内研⑥	2月 資料印刷・製本 研修
5月 第２回全体会	7月 校内研②	9月 研修 事前研？	１１月 校内研④ 校内研⑤ ＊全体研	1月 資料作成 資料作成	3月 研修（アンケート） 次年度研究について

単元構想と指導案の形式

第　学年　国語科学習指導案

平成　年　月　日（　）

児童数　　名

指導者

1　単元名

単元名は，児童から見た活動名を書く。児童の意欲を喚起するネーミングを考える。

2　単元とその指導

○ 本単元が，どのような国語の能力を身につけさせようとしているかを説明するとともに学習指導要領の主な指導事項を示す。段落の後半は，単元で使用する主な教材（学習内容）について，具体的に説明する。

「読むこと」に関わる内容について，児童にどのような力を付けることができるかを書く。

「学習用語」についても検討中。

○ 単元のねらいにそった言語活動や活動意欲に関する児童の具体的な実態を記述する。指導に向けてふまえておきたい実態を確認しておくと指導への反映がしやすい。

これまでの「読むこと」の学習を振り返り，児童の実態（取り組みへの意欲，課題など）を書く。事前調査を行って，その状況を書く。

○ 本単元の基本的な考え（基本姿勢）を全般的に記述する。その後に単元の過程ごとに具体的な指導の工夫を記述していく。そうすることによって，単元の指導にこめた指導者の指導上の工夫が明確にできる。

「読むこと」に関して，指導のポイント，どんな指導が有効であると考えているのか，（　　）する児童を育てるための指導を書く。

3　単元の目標と評価規準

（1）単元の目標

単元ごとの評価規準を参考にしながら，単元の全般的な目標を記述する。

（2）評価規準

単元の目標を達成する上での観点ごとの評価規準を列記する。全ての領域が必要とは限らない。

4　指導計画（全　　時間　本時○／□）

次	時	学　習　活　動	教師の指導◎　　支援○
		○ 児童の意識から見た主な学習活動を記述する。文末は「～する。」になる。	指導者が児童に対してどのように対応するかを記述する。その中には支援的な対応，援助的な対応，助言的な対応を記述する。できるだけ（何のために）（何を）（どのように）が分かるように記述することが望ましい。

5　本時の学習（　　／　　）

（1）目標

○本時での学習活動を述べ，到達すべき目標を子どもの立場で記述する。

～できる。

・読むことに関するねらい

（2）展開

過程	学習活動	教師の指導◎　支援○　評価（◆）
きづく	1　～する。 児童の意識から見た学習活動を記述する。 2　本時のめあてを持つ。	○　～させる。 指導は，頭に（○）をつけ，指導者が児童に対してどのように対応するかを記述する。その中には支援的な対応，援助的な対応，助言的な対応を記述する。できるだけ（何のため）（何を）（どのように）が分かるように記述する。 ○主体的に読もうとする児童を育てるための内容をいれる。
かんがえる	◆評価 A： →	規準（B基準）： ＜評価方法：　　＞
わかる		

校内研究の経過（23年度）

武雄市立若木小学校

月	日	曜	内　容	
4	7	木	研究推進委員会　今年度の研究構想について	推進
	13	水	今年度研究構想について	全体
5	11	水	上下学年部会　全体授業研究会授業者決定・	全体
6	15	水	2年生・6年生事前研	G
	29	水	6年生　事前研（全体）2年生研究授業　グループ「スイミー」平川美香教諭	全G
7	11	月	学校訪問　6年生　研究授業「やまなし」坂口直子教諭	全
8	1	月	専門部会（言語環境部　調査研究部）	全G
8	3	水.	講師招聘（教育センター　西山恵美先生）	全
9	14	水	研究授業準備（高学年5・4年生の授業について・低学年　1年・3年の授業について）	G
	28	水	個人研修	個
10	5	水	指導案検討など　（高学年G4・5年生,下学年1・3年生　指導案検討）	G
	12	水	指導案検討など　（高学年G4・5年生,下学年1・3年生　指導案検討）	G
	26	水	下学年　1年生研究授業　指導案検討　事前研	全体
11	1	火	3年生　研究授業「ちいちゃんのかげおくり」稲富 巳知郎　教諭	G
	2	水	3年生　事後研　1年生授業準備　4年、5年指導案検討など	G
	9	水	1年生　研究授業「じどう車くらべ」中島　都子教諭　講師招聘　西山恵美先生	全体
	22	火	4年生　研究授業　「詩を楽しもう」小野真理教諭	G
12	1	金	5年生　研究授業「天気を予想する」池田雅彦教諭	G
12	14	水	研究のまとめについて提案　　専門部での話し合い	全体
12	21	水	個人研修	個
1	11	水	研究のまとめ　資料作成　めざす児童像・研究の方法について成果と課題	G
2	1	水	研究のまとめ　資料作成　各学年の実践	個
	28	水	資料印刷・製本	全体
3	9	水	アンケートの記入　次年度の研究について	個
	23	水	次年度の研究について	全体

Ⅲ　研究の成果と課題

Ⅲ　今年度研究の成果と課題

①　めざす児童像に近づけたか

（下学年）　成果◎　課題△

・いろいろな読みものに興味を持って読むことができる子ども	◎ その単元に応じて読書の幅が広がった。 「一冊は、今勉強している単元に関連した本を借りよう」といった担任の声かけが有効であった。 ◎ 市立図書館の団体貸し出しを利用することで読書の幅が広がった。 △ ゾロリシリーズなど、読む本に偏りのある子どもを他の本にも目を向けさせるための手立てがとれなかった。
・書かれていることがらのも順序や場面の様子などに気づいたり、想像を広げながら読むことができる子ども	◎ 物語文は、デジタル教科書の挿絵を利用して、全体のあらすじをつかむことができた。 ◎ 動作化を取り入れたり、吹き出しに書かせたりすることで、想像を広げながら読ませることができた。

（上学年）　成果◎　課題△

・登場人物の心情、場面の描写をとらえながら読むことができる子ども	◎擬声語擬音語の言い換えで場面の描写をとらえた。 ◎一つ一つの語句に着目して読ませて、心情や描写にせまれた。（詩） △(長文になるので)一人読みの時間を確保し、細かく読ませる必要性はあるが、一人読みの力に個人差がある。 →一人読みの苦手な児童に対する手立ての工夫 →読みの視点の与え方の工夫
・文章の内容を的確に押さえたり、段落の関係を考えたりしながら読むことができる子ども	◎表やグラフと結びつけて読み取ることで、内容を的確に捉えることができた。 △段落ごとの内容（問い・答えなど）は読み取れるが、段落相互の関係を捉える力に個人差がある。 →段落相互の関係を捉えることが苦手な子に対する手立ての工夫 →段落相互の関係を整理する手立て（図解など）の工夫

② 研究内容と方法は有効であったか。

（下学年）　成果◎　課題△

一人読みの時間の確保と手立て、工夫	◎ サイドライン、穴埋め、キーワードの抜き書き、書き込み等の手立てをすることで、自分の考えを持つことができた。
音読を重視し、学校生活の中で音読の時間を確保していく。	◎１年生は、 朝の会で毎日音読をさせているので、音読が上手になった。 △ 全校朝会等で、今月の詩の発表の機会があってもよかった。
ワークシート・ノートの活用、工夫	◎ 全文を載せたり、穴埋め方式にしたり、吹き出しを入れたりしたワークシートを活用することができた。 △ ワークシートばかりを使うと、ワークシートに頼ってしまう子どもが増えてしまう面もあるが、低学年はワークシートがあった方が便利だった。
学習用語の指導	◎ その都度、指導ができた。 △　若木小の学習用語表の完成
国語辞典の活用	◎ ３年生は、毎日１単語ずつ探す練習をしているため、３０秒程度で探すことができるようになった。 △　１、２年生でも、活用できるよう指導法を考えていく。
評価の工夫、改善	◎ 授業中に評価することは難しいため、ワークシートやノートなど、後に残るもので評価をしてきた。

（上学年）　成果◎　課題△

一人読みの時間の確保と手立て、工夫	◎一人読みの時間を確保することで単元を通して個人の意欲は向上し、主体的に読もうとする児童が増えた。 △一人読みの視点の与え方の工夫が必要
音読を重視し、学校生活の中で音読の時間を確保していく。	◎全教科で音読を取り入れた。暗誦することで意欲があがった。音読から読書へ広がりが出てきた。 △時間の確保が難しい。
活動の目的・内容方法に応じた教材・教具の開発	◎デジタル教科書の活用が有効だった。
ワークシート・ノートの活用、工夫	◎指導者にとっては、先の見通しが立てやすかった。 △ワークシートの課題の提示の仕方と量の工夫が必要。 △ワークシートからノートへつなげていきたい。 →中学生の模範ノートを見せてもらえたら… →各学年の模範ノート掲示コーナーを作る。
学習用語の指導	◎既習事項を活用することができつつある。 △学年の系統性を見直しが必要 →教師用と児童用を作成し、掲示する。
国語辞典の活用	◎漢字辞典も含めて自発的に調べることができている。
評価の工夫改善	△評価の観点を設定して評価することが、できていない単元もあった。 →
そのほか	△研究内容と方法の項目が広がりすぎている。 →項目を絞って深めていく方向で。

③　専門部の取り組み

成果　◎　　課題　△

言語環境部

ねらい	国語や言葉に興味を持つ
活動内容	・国語コーナーの新設 （今月の詩・漢字クイズ・四字熟語・ＰＣ国語ゲーム） ・回廊にことわざを掲示 ・発言話型の掲示の確認
成果と課題	◎ 教室掲示の発言話型を、その都度意識させていくことで、徐々に定着しつつあるようだ。 ◎ 漢字クイズは関心が高かったようだ。異学年での教え合いなども見られた。 ◎ ことわざ掲示は、通りすがりに自発的に唱えている子が見られた。 ◎ 今月の詩は、自発的に暗誦し、合格を目標に取り組んでいる子が見られたが、意欲に個人差はあるようだ。１年生は、毎朝今月の詩を音読して、ほとんどの子が暗誦できていた。３年生は、今月の詩のつづりに、他の詩を視写したものも加えて詩集を作って暗誦させるようにした。 △国語コーナーの場所の検討。 △ＰＣ国語ゲームのためのＰＣ台数を増やす。 △今月の詩は、全校でそろえた方がよい。 ∵日常生活で触れない言葉に触れさせる機会としたい。 ∵又、中学校や高校で出会う古典に触れさせておくことで、古典への抵抗を軽減させておくことにもつながる。 △今月の詩の選択は、一旦専門部会で共通理解しておく。

情報発信部

ねらい	学力向上のための情報発信 ・家庭への啓蒙 ・読書の推進
活動内容	・校内研だより（若木っ子）、図書館だよりの発行 ・学校での読書の推進 ・読書回覧・家読の推進
成果と課題	◎ 校内研だよりを発行したことにより、学校の取り組みを家庭に周知することができた。 ◎ おすすめの本の一覧表やコーナーを設けたことで、学年相応の本を読むことへの意識づけができた。 ＜読書回覧について保護者アンケートより＞ ◎ 読書回覧は、親子での読書・感想交流をすることにより、子どもがどのように感じているか知ることができた。 ◎ 普段使っている言葉でも、意味を理解していないものを教えることができた。 ◎ いつもは選ばない分野の本を一緒に読めてよかった。 △おすすめの本を自分から進んで読むことが少ない子・読むジャンルに偏りがある子への指導が必要。 △回覧する読書の選書（親子で読める本）は、担任任せにせず、専門部で紹介する等の工夫が必要。 △読書回覧のノートはグループで回すのではなく、本と一緒に回して、感想交流を学級全体に広げたほうがよい。

「校内研究まとめ」の冊子は教育文化としての財産

まず、今年度も西山恵美先生（佐賀県教育センター所員）の懇篤なるご指導に感謝申し上げます。

本校の「校内研究のまとめ」として本冊子が完成しました。これは、今年度の校内研究を凝縮した価値あるものであり、教育基本法第九条にある「教員の研究と修養の証」そして「若木小学校の教育文化としての財産」であると認識している私です。

私たちを取り巻く環境も国際化・情報化してはきましたが、今後一層研究を深め、児童の「国語力」の向上に努めていこうではありませんか。

ところで教育は、人づくりです。これからの日本を世界を背負う「将来の大人」である児童（「未来から来た留学生」とも言われています。）」に対してどんな教育が必要なのでしょうか。先人のことばを通して答えが見えてきます。

★晩餐会はいりません。そのお金を貧しい人のためにお使い下さい。（マザーテレサ）

★世の中に　思ひやれども　子を恋ふる　思ひにまさる　思ひなきかな（紀貫之：土佐日記より）

★なせば成る　なさねば成らぬ　何事も　成らぬは人の　なさぬなりける。（上杉鷹山）

★学問とは　人として踏み行うべき正しい筋道を修行することであって　技能に習熟するだけのものでは決してない。（橋本左内）

★それは心のけがれを清め、身のおこなひをよくするを本実とする。（中江藤樹：翁問答より）

そして最後は

★仰げば尊し　我が師の恩　教えの庭にも　はや幾年　思えば　いと疾し　この歳月　今こそわかれめ　いざさらば。　互いに睦し　日頃の恩　別るる後にも　やよ忘るな　身を立て　名を上げ　やよ励めよ　今こそわかれめ　いざさらば。　朝夕なれにし　まなびの窓　蛍のともし火　積む白雪　忘るる間ぞなき　ゆく歳月　今こそわかれめ　いざさらば。（仰げば尊し）

平成二十四年　立春

山﨑健彦（教頭）大拝

平成23年度　研究同人

〈指導講師 〉

佐賀県教育センター　　西山恵美　先生

本校職員

校　長	山口　左内
教　頭	山﨑　健彦
教　務	今田　和也
1年担任	中島　都子
2年担任	平川　美香
3年担任	稲富　巳知郎
4年担任	小野　真理
5年担任	平川　美香
6年担任	坂口　直子
あゆみルーム担任	川﨑　美紀
TT担当	松尾　玲子
養護教諭	池田　友紀
主　査	武富雄一郎
学校生活支援員	伊東　邦子
業務員	山崎　幸子
図書・給食事務	田中　律子